

はじめに

本報告書は、奄美大島において発達障がい児やその特性がある子どもの保護者及び支援者に対する支援活動の充実や離島においても展開できる永続的なサポートシステムを作ることを目的に、2014年度 独立行政法人福祉医療機構 地域連携活動支援事業により実施した取り組みについてまとめたものです。

本事業実施地区である奄美大島は、鹿児島市から南西 400km、沖縄と鹿児島の間位置しております。離島であるために専門的な社会資源に恵まれず、障がいのある子どもを取り巻く人々は各機関や施設で個々に取り組みを行うしかない環境にありました。そこで私どもは、平成5年に奄美大島の中心である奄美市に、障がいのある子どもの親のネットワーク構築を目的とした奄美療育研究会を設立し、小児発達・神経専門外来や毎日通える療育の場づくりなどに取り組みました。平成17年に、「奄美療育研究会」から「NPO 法人チャレンジドサポート奄美」へと法人化したあとも、奄美本島内から指定相談支援事業所として事業委託を受ける他、鹿児島県から障がい児等地域療育支援事業の委託を受け、奄美群島全域（奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部、与論島）において様々な活動を展開してまいりました。また、平成21年度から「発達障がい児等に対する支援ネットワークモデル事業」により、奄美地区における発達障がいの子どもの早期発見から早期療育まで総合的な支援体制構築に取り組むことになりました。これにより、小さな離島ゆえに顔の見えるネットワークを容易に構築できたことをはじめ、たくさんの島内外の専門家と出会い、力を貸していただけるようになりました。

平成26年度は、これまでに構築したネットワークを活かし、「親支援」という原点に再び戻り、平成25年度思春期親子キャンプに講演に来ていただいた辻井正次先生にご協力をいただきながら、「親が自分で考え、自分で気づき、自分で発信する力をつけることができるプログラム」の導入と支援者養成研修を同時に行い、「専門家に頼らなくても地域の力で広がっていくサポートシステムの構築」の第一歩が築けたことが特徴のひとつです。この場をお借りして、参加して下さった保護者のみなさま、支援者のみなさまにお礼を申し上げます。

今後とも、子ども本人だけでなく、親やその周りの人たちも「この土地で生まれて良かった」と言える成熟した地域社会の実現にむけて、乳幼児期から成人に至るまでライフステージに応じた「一貫した総合的な支援＝『環』の構築」をめざし、日々の実践を積み重ねていくことに努めてまいります。

本報告書が、子どもにかかわる多くの方々に活用いただければ幸いです。

平成27年3月

NPO 法人 チャレンジドサポート奄美
理事長 向井扶美